



J F E プラリソース 株式会社

C S R ・ 環境報告書

2 0 1 1

目次

ごあいさつ	1
会社概要	2

企業理念・行動規範・行動指針	4
----------------	---

社会的側面	5
マネジメント体制	6
お客様・お取引先様とともに	8
地域社会の皆様とともに	9
従業員とともに	12
社外からの評価	15

環境的側面	16
環境マネジメント	17
環境コミュニケーション	20
環境負荷の低減	23

◇報告対象期間

2010年4月1日～2011年3月31日

資源循環型社会つくりへ貢献

代表取締役社長

堀田 裕久



JFE プラリソース株式会社は、2009 年 7 月 JFE 環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

NF ボードを利用した材料リサイクルにより『CO₂削減』、更に使用後再リサイクルすることにより『化石燃料削減』等を実現しています。環境に優しい企業として、市民へのリサイクルの『見える化』に注力し、各種リサイクルを推進しております。


また、環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を進め、トップレベルの環境配慮型企业を目指します。

今回新会社設立による体制変化をチャンスと捉え、現場パワーアップを通して働きがいのある会社を目指し、社員一同団結して『夢とロマン』の溢れる会社つくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。

代表取締役社長

堀田 裕久



会社概要

会社名	J F E プラリソース株式会社		
代表者氏名	代表取締役社長 堀田 裕久		
役員氏名	取締役	山田 正二	灘 信之 恒川 裕志
	監査役	氷室 徹行	
設立年月日	2005 年 11 月 2009 年 3 月登記（定款・社名変更）		
資本金	90 百万円		
売上高	約 30 億円		
従業員数	約 70 名		
住所	本社	〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町 5 番地 1 TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328	
	京浜事業部	同上	
	福山事業部	〒721-0956 広島県福山市箕沖町 1 1 3 番地 TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170	
URL	http://www.jfe-plr.co.jp/		
事業内容	一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業 上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売		
沿革	2000 年 4 月	水江原料化工場稼働（処理能力 185 t / 日） 福山原料化工場稼働（処理能力 200 t / 日）	
	2002 年 9 月	N F ボード製造工場稼働	
	2009 年 7 月	J F E 環境株式会社から容器包装プラスチックの リサイクル事業を承継 J F E スチール株式会社が全株式取得（100%子会社）	

京浜事業部
水江原料化工場



N F ボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場



企業理念・行動規範・行動指針

企業理念

「JFEプラリソース株式会社は、環境と調和した社会の構築に貢献します。」

行動規範

「挑戦。柔軟。誠実。」

JFEプラリソース株式会社 行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ確かな情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

10. 法令の遵守

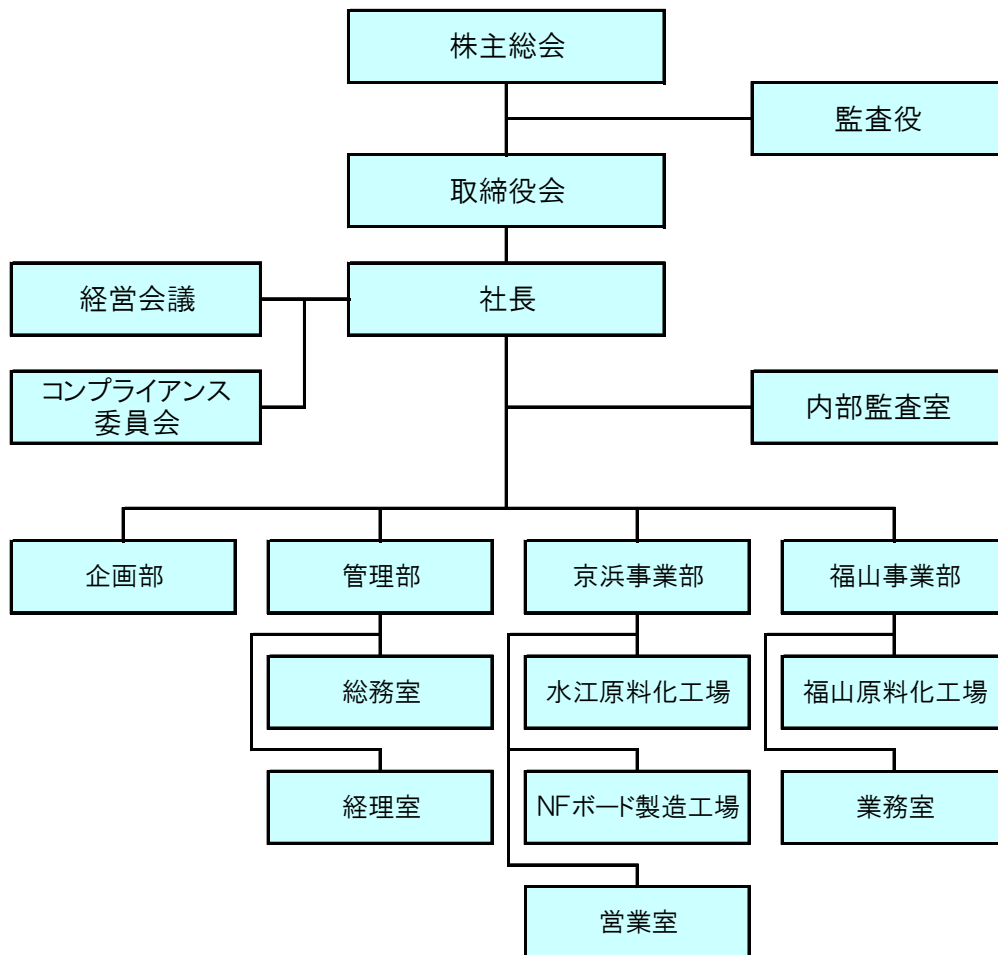
法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

社会的側面

マネジメント体制

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的な事業推進による競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制

内部統制体制は、取締役会規則・経営会議規則などの会議規程、組織・業務規程の制定や、企業倫理ホットラインの設置などによって整備されています。持続的な企業価値の向上のため、整備・運用状況について定期的に確認し、改善に努めます。

契約管理、環境管理、法令遵守状況などの業務プロセスについて、定期的な自己チェックを実施するとともに、内部監査室による監査を実施します。

CSRマネジメント

社会を構成する一員としての企業の責任を自覚し、より良い社会の構築に向けて企業の社会的責任（CSR）を果たすべく、取り組みを強化しています。

コンプライアンス（法令遵守）の徹底

CSRの基礎をなす「コンプライアンス（法令遵守）」を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、社長をリーダーとするコンプライアンス委員会を開催し、以下の審議や情報交換を行うとともに、諸施策を実施しています。

- ・ コンプライアンス基本方針の審議・決定
- ・ コンプライアンス課題と対策の検討・実施
- ・ コンプライアンス案件の紹介と社内での周知徹底

企業倫理ホットラインの運用

コンプライアンスにかかわる重要情報が現場から経営トップ（社長）に迅速かつ正確に伝わるよう「企業倫理ホットライン」を設置しています。ホットラインの運用にあたっては、通報・相談者の保護に関する規則を定めています。

リスクマネジメント

事業を取り巻くあらゆるリスクの予防と、緊急事態が起こった際にも事業を継続していけるよう、リスクマネジメントに取り組んでいます。

各工場で重要リスクを洗い出し、リスク評価・対応策を検討し、実行状況を管理しています。重要リスクは毎年見直し、各年度で重要課題を設定しています。また、工場間の情報交換や情報共有により、全社一体の活動を推進しています。

新型インフルエンザに対する対策や大型地震発生時の対策等について、重要継続業務リストの作成、備蓄品の整備などを進め、リスクマネジメントの強化を図っています。

お客様・お取引先様とともに

品質管理、CS（お客様満足）向上

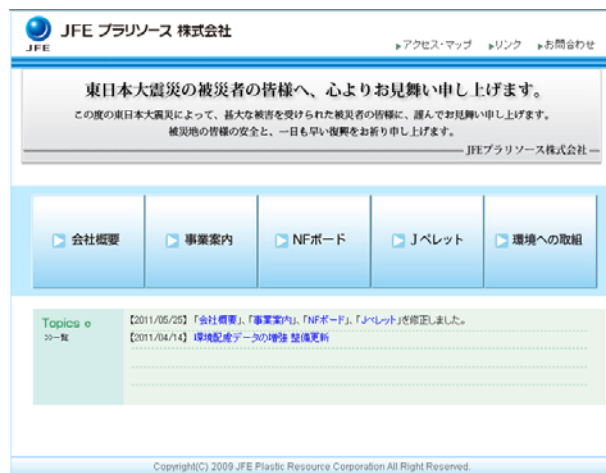
生産部門から管理部門まで技術標準を制定し、徹底した品質マネジメントを推進しています。お客様とのコミュニケーションを積極的に図り、お客様のご意見・ご要望に真摯に対応して、課題を解決することで、お客様満足度の向上をめざしています。

情報開示

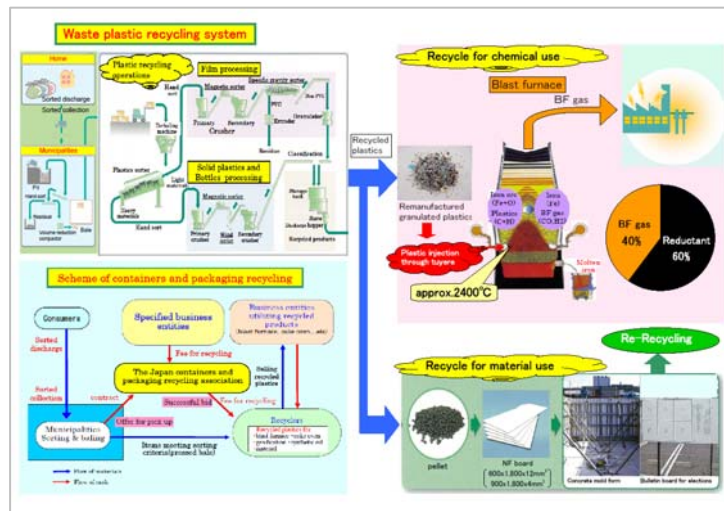
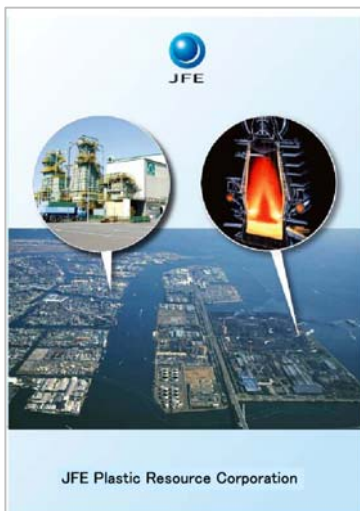
会社概要、事業概要、環境方針などを当社のホームページに掲載しています。

ステークホルダーの方々とのコミュニケーションツールとして、資料の請求やお問い合わせ等をしていただける窓口を設けています。

<http://www.jfe-plr.co.jp/>



また、英語版の会社案内・カタログを作成し、全世界に向けての情報発信を進めています。



地域社会の皆様とともに

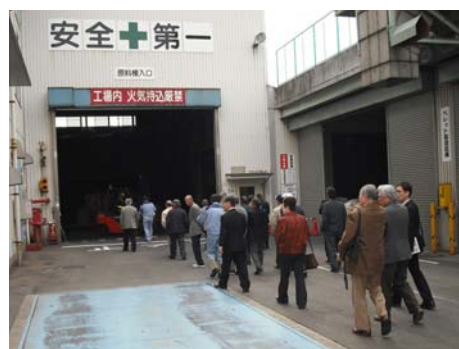
見学の受け入れ

地域社会に開かれた会社をめざして、一般市民の皆様の見学を積極的に受け入れています。中央官庁や市町村の方々にも、多く視察いただきました。また、海外の行政機関や研修生の方々にもお越しいただきました。



2010年度見学実績

	件数	人数
一般	41	516
中央官庁	4	36
市町村	41	227
海外	4	87
計	90	866
(’09年度実績)	(47)	(562)



啓発活動

資源循環型社会を実現するため、一般市民の皆さまに積極的に情報発信して、ご理解を深めていただいています。

(1) 京浜地区

月日	活動内容
4月22日	NPO法人 産業・環境創造リエゾンセンターの定例会にて、当社の環境活動を報告。
8月27日	かわさきFMIに出演。 当社の事業内容・環境活動を紹介。



(2) 福山地区（福山市と共同開催）

月日	出前講座
7月21日	神辺御野町内会
2月18日	
8月21日	松永判屋町内会
1月28日	



行政との連携

プラスチック製容器包装の再資源化を中心に、環境活動全般について、市町村等の行政機関と以下のように連携しました。

期日	行 事
2010年 4月	環境省「プラスチック製容器包装に係る再商品化における地域連携モデル事業（福山市）」 市町村・容リプラ再商品化事業者・消費者の連携協働により、リサイクルの量的・質的向上をめざすもの。 2009～2010年度の2ヶ年。
2010年 5月 (5/15～16)	第44回福山ばら祭（福山市） 福山市の行っているエコ意識向上活動に協賛し、当社再商品化製品（造粒品・材料ペレット）及びNFボードを多数展示。
2010年 6月 (6/1～8/31)	エコでえ～ことキャンペーン（福山市） マイバックなどの身近な取組みを通して、環境意識の向上を図り、環境にやさしい生活スタイルをめざす運動に協賛。
2010年 7月	かわさきエコドライブ宣言（川崎市） 川崎市「かわさきエコドライブ推進協議会」の「かわさきエコドライブ宣言」に登録。 自社および運搬車両の排ガス中CO ₂ 、大気汚染物質削減に取り組む。
2010年 8月 (8/1～10/30)	ふくやまエコファミリー認定制度（福山市） 福山市が温暖化対策事業として取り組んでいる「スクラムふくやま☆エコトライ」活動の一環。 電気・ガス・水道の使用量削減等に取り組む。

期日	行 事
2010年 10月 (10/17)	<p>第9回福山市リサイクルフェスタ（福山市）</p> <p>環境にやさしいライフスタイルのきっかけ作りの場として福山市が開催。 当社再商品化製品やNFボードを多数展示し、プラスチック製容器包装のリサイクル推進を呼びかけ。 1日間の開催で、4,800人来場。</p>
2011年 2月 (2/16~17)	<p>川崎国際環境技術展2011（川崎市）</p> <p>環境分野での産業交流、技術移転による国際貢献の推進を目的として、川崎市が開催。 薄型NFボードを掲示板として多数PR展示。 2日間の開催で、12,500人来場。</p>

従業員とともに

労働安全衛生

従業員の安全と健康の確保は、企業の基盤を成すものです。「安全は全てに優先する」の基本理念のもと、JPR安全文化を定着させるよう、「ワースト5作業」の改善活動を継続しています。

トップから「鳥虫魚の目で、鳥(マクロ感)、虫(現場を複眼で見る目)、魚(潮目をみる目)で安全最優先と行動前にひと呼吸」を発信中です。

2011年 安全衛生活動方針

1. 基本理念

- 『安全は全てに優先する』
・異常時は必ず止めてKY実施(行動前にひと呼吸)

2. 活動目標

- 『完全無災害の達成』

3. スローガン

- 『現場100回 定着させようJPR安全文化』

4. 活動方針

- (1) 工場の「ワースト5改善活動」を通して
『日本一安全な工場創り』
- (2) 明るい挨拶・指差呼称を通して
『笑顔ではつらつとした職場造り』
- (3) 心と体の健康づくり
・フェースチェックでメンタルヘルスケア
・運動と食事改善習慣で健康力アップ



安全パトロール



安全衛生委員会

防災への取り組み

防災管理

防災は企業の生命線であるとともに、社会に対して責務を負っているものです。

当社では、緊急時の処置基準、通報基準、連絡基準等を技術標準に規定し、万が一に備えています。また、発災リスク管理を行い、重点管理すべき項目を洗い出し、日々の防災点検を実施しています。



消防訓練

万が一の場合は、初動が重要です。

当社は、プラスチックという可燃物を大量に扱っていますので、火災予防に重点を置き、定期的に消防訓練を実施しています。

◇消防訓練 2010年6月10日(木)
 於：福山地区
 2010年9月10日(金)
 於：京浜地区



全社防災訓練

2010年9月には、休日に震度6クラスの地震が発生したという想定のもと、緊急連絡、運転対応などの訓練を実施しました。緊急措置後の事業継続に必要な事項についても検討し、防災体制の強化を推進しています。

◇全社防災訓練 2010年9月28日(火)
 於：京浜・福山地区



社外競技会への参加

市消防署の主催する消防競技会に毎年参加し、技能向上に努めています。

2010年9月28日(火)
於：福山市芦田川河川敷



東日本大震災時の対応

2011年3月11日 東日本大震災発生時、京浜地区は以下のように対応しました。

「大規模地震想定訓練要領」に従い、

- ① 各工場は、工場設備処置・人員確認・安全確保を行い、緊急避難場所に避難。
事務所は自衛組織分担に従い、処置及び緊急避難場所に避難。
- ② 対策本部を設置し、保全措置等を実施。JFEスチール水江南地区対策本部
に対し、一時間おきに状況報告（3月17日18時解除）。

人的物的被害はありませんでしたが、大震災当日は大勢のメンバーが帰宅できず、社内外連絡体制や従業員対策等のより強固な防災体制の必要性を痛感し、早期確立に努めています。

小集団活動、事例発表大会、安全大会

品質や業務の改善、安全の推進などに果敢に取り組む小集団活動に注力し、課題を見逃さず自身で解決するたくましい職場づくりを進めています。全社発表会は成果を共有するとともに、プレゼンテーション能力の開発も目的としています。

◇事例発表大会 2011年2月16日(水)

◇安全大会 2011年3月24日(木) (東日本大震災の影響により中止)
於：水江教育センター



技術・技能の向上

日々のOJTをベースとして、社内競技会を実施し、技術・技能の向上を図っています。技術の向上とともに、安全の再認識を目的としています。競技者のみならず、社員全員の意識高揚も推進しています。

◇フォークリフト競技会 2010年12月9日(木)
於：福山原料化工場



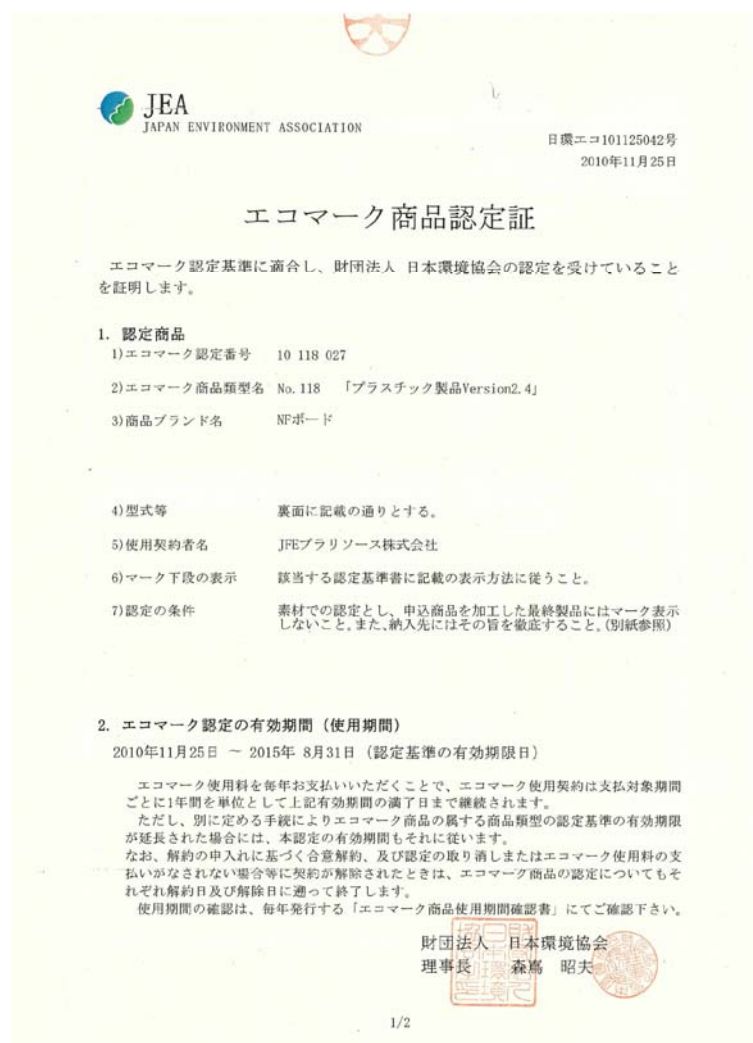
認定

N F ボードに関して、2010 年度は以下の認定をいただきました。

エコマーク商品認定：日本環境協会

主な認定要件

- ・ 再生プラスチックが全プラスチック中の 25%以上含まれています。
- ・ 製品は法令および業界自主基準等に定められている重金属等の有害物質等を含みません。
(プラスチック添加物・色剤は、業界毎に自主基準で定められているポジティブリストに従っています)
- ・ 製品にはリサイクルし易いように材質表示がなされています。



環境的側面

環境マネジメント

基本方針・行動方針

当社は容器包装プラスチックリサイクルを事業としており、事業自体が、循環型社会の実現に貢献するものです。基本方針・行動指針を以下のように定め、トップレベルの環境配慮型会社をめざして、実効ある活動を推進しています。

基本方針

『JFEプラリソース株式会社は容器包装プラスチックリサイクル事業を通じて循環型社会の実現に貢献します。』

環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、環境マネジメントシステムを導入し、全社一丸となって積極的に環境保全活動に取り組みます。

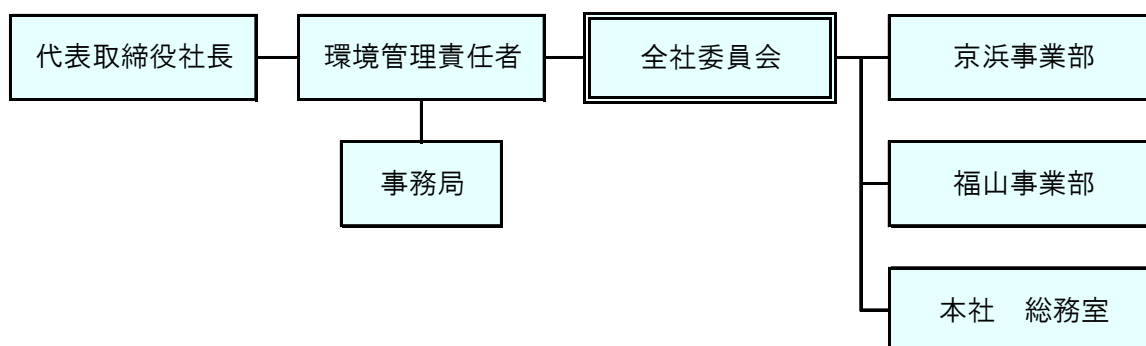
行動方針

- (1) 適用される関連法規及び規制を遵守します。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、維持し、継続的に改善します。
- (3) 具体的には、以下の事項に取り組みます。
 - ①省エネルギー及びプラスチックリサイクルの推進による二酸化炭素排出量の削減
 - ②用水使用量の削減等による省資源
 - ③リサイクル率向上等による産業廃棄物の削減
 - ④工場見学受入・環境展への参加等を通じて地域環境教育への積極的な取り組み

環境マネジメント体制

環境に関わる事項を遵守することはもちろんのこと、環境と調和した事業活動を展開することが、今や企業が存続していくための基本要件となっています。

当社は環境マネジメントシステムを導入し、全員参加型の環境マネジメント活動を進めています。代表取締役社長が環境管理責任者を任命し、環境管理責任者は各部門の活動を統括しています。各部門では、部署長（本社は総務室長）が自身の部門を統括し、上位部門に対して責任を負う体制としています。



代表取締役社長	環境方針を決定する。 活動の総合評価と方針の見直しを行う。 環境管理責任者、その他の責任者を任命する。
環境管理責任者	全社委員会を運営する。 本社総務室長及び京浜事業部長、福山事業部長、事務局を指揮し、活動を総括する。
事務局	環境管理責任者を補佐し、活動実務を中心的に行う。
全社委員会	活動事項の決定、報告を行う。 代表取締役社長、環境管理責任者、京浜事業部長、福山事業部長、本社総務室長及び事務局で構成し、環境管理責任者が召集する。
京浜事業部長	全社委員会の決定事項に基づき、京浜事業部を総括する。
福山事業部長	全社委員会の決定事項に基づき、福山事業部を総括する。
本社総務室長	全社委員会の決定事項に基づき、本社部門を総括する。

認証取得

水江原料化工場

JFEスチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）傘下で、ISO14001による環境マネジメントシステムを運用しています。

立地する東日本製鉄所（京浜地区）一体で取り組むことにより、地域の環境パフォーマンスの改善を強力に推進しています。

監査においては、認証機関に加え、内部監査を充実し、自立的マネジメントに努めています。



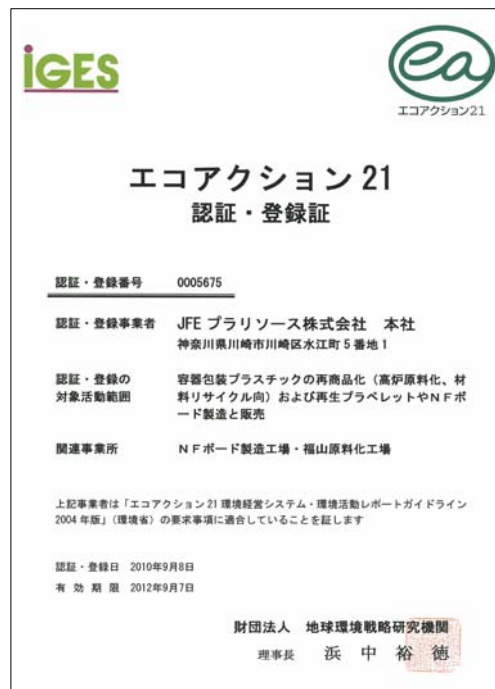
NFボード製造工場、福山原料化工場

省エネルギーや省資源など、事業活動に伴う環境負荷の低減について、より具体的な成果を得るべく、「エコアクション21」の認証取得・登録をしました。

(2010年9月8日)

環境への負荷・取組の自己チェック、環境方針・環境目標・活動計画の策定、計画の実施、取組の評価、見直しをガイドラインに沿って毎月実施しています。

2010年度を総括して評価するとともに、2011年度の目標設定見直しを行います。



環境コミュニケーション

地域との融和をめざして

「私達は環境と調和した社会の構築に貢献します」の看板を工場入口に設置し、地域の皆様に当社の方針を宣言しています。

また、地域の皆様にとって和める会社をめざして、高木、芝地、草花の植栽を整備しています。



公道清掃活動

地域の皆様に当社工場周辺を心地よく通行いただけるよう、公道の清掃を定期的に行っています。工場内の植栽と合わせて、すがすがしさの醸成に努めています。



= 京 浜 =



= 福 山 =

使用済プラスチックリサイクル一貫システムを通じて

当社は、一般家庭から排出されたプラスチック製容器包装を再資源化し、再生プラスチック商品（NFボード等）を社会にリサイクルしています。使用済プラスチックリサイクル一貫システムにより、循環型社会の実現に貢献しています。

1) 一般家庭から分別排出

一般家庭で発生したプラスチック製容器包装は、貴重な都市資源です。まず、分別して排出していただきます。

2) 市町村の分別収集・選別・ベール化

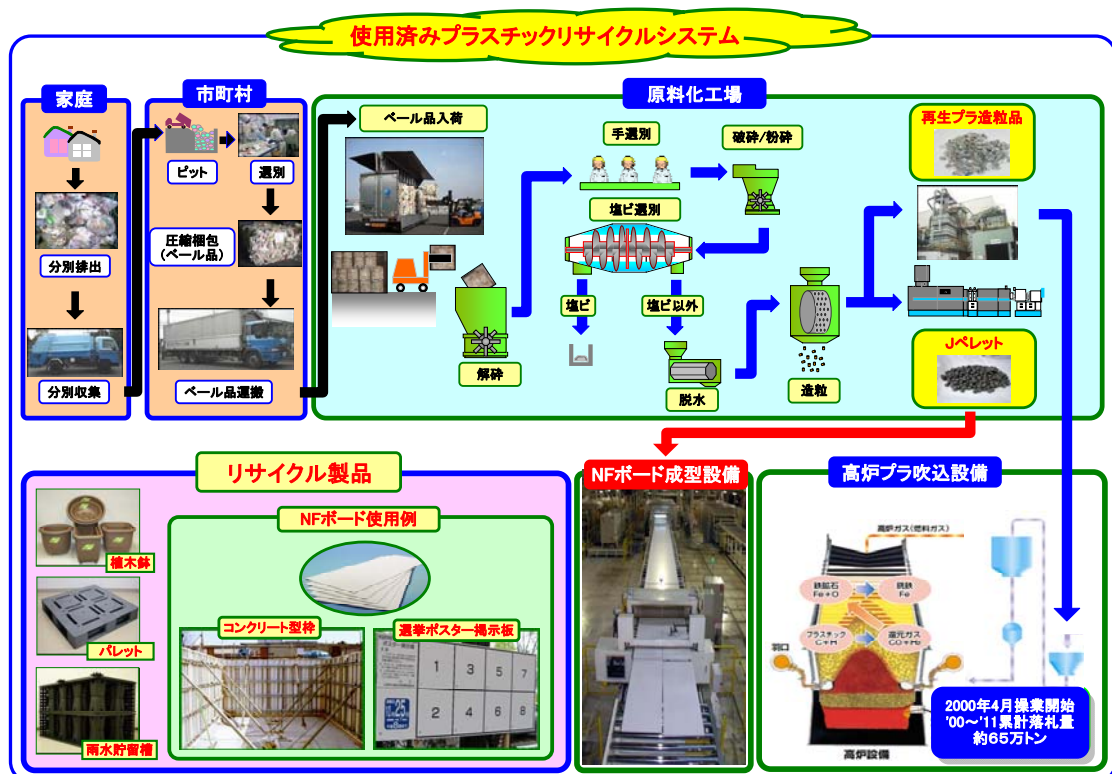
市町村が分別収集し、異物を取り除く選別と圧縮ベール化を行います。

3) 当社で再資源化

当社でさらに選別/破碎/粉碎/塩ビ分離/洗浄/脱水/乾燥後、造粒/ペレタイズして、再生プラ造粒品及びJペレットとします。

4) 社会にリサイクル

NFボードなどの再生プラスチック商品に加工され、社会に材料リサイクルするとともに、高炉でコークス代替原料として利用され、石炭や微粉炭等の化石資源の節約に寄与します。



製品を通じて

「NFボード」（厚さ 12mm）は、再生プラスチックボードです。プラスチック製容器包装の再資源化商品として、バージンプラスチックを代替し、資源節約に貢献しています。薄肉軽量化に挑戦し、薄さ 4mm のボードや廃プラスチックのみのボード（SLボード）もラインアップしました。

選挙ボードなどの掲示板、ウィング車内装等の業務用から、スケートボード場床材等の民生用まで、多方面に活用されています。

使用済のボードは、弊社にて回収しカスケードリサイクルするシステムを構築しています。



スケートボード場床材（12mm）



選挙ボード（4mm）



ウィング車内装（4mm）

当社が製造した再生ペレットは、プランター・パレット・雨水貯留槽などに加工され、各方面で利用いただいています。工場内に展示コーナーを設け、見学頂いた皆様にリサイクルへの関心を深めていただけるよう努めています。



プランター



パレット



雨水貯留槽

環境負荷の低減

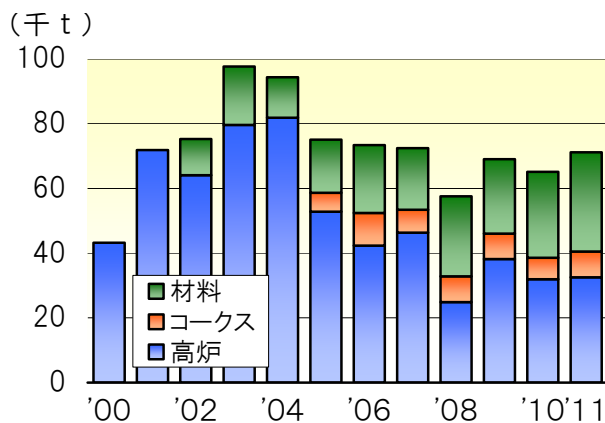
プラスチック製容器包装のリサイクル

当社は、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）に基づき、一般家庭から排出されたプラスチック製容器包装を再資源化し、再生プラスチック商品として社会にリサイクルしています。

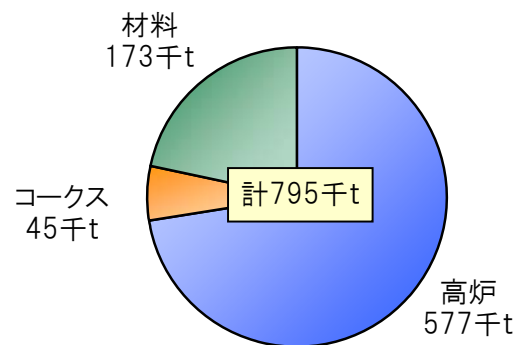
容器包装リサイクル法では、5つの手法が定められており、当社は、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料化」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。2000年4月の法施行と同時にリサイクルを開始し、以来、資源循環型社会づくりに努めています。

工場	手法	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2011
水江原料化 NFボード	高炉	→						11年
	コークス			→				6年
	材料		→					9年
福山原料化	高炉	→						11年
	材料				→			5年

2000年度の事業開始以降、プラスチック製容器包装をトータル約800千tリサイクルしています。これは、全国総量の約10%を占めています。



プラスチック製容器包装リサイクル量の推移



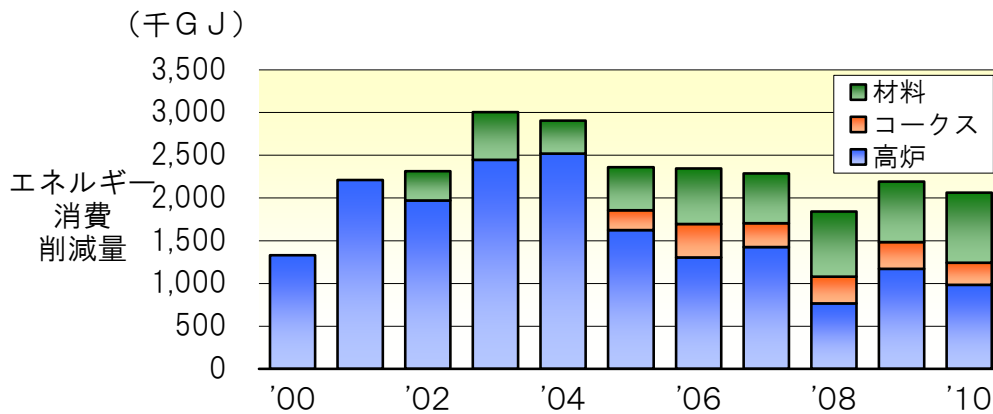
リサイクル手法の内訳

('00~'10トータル 795千t)

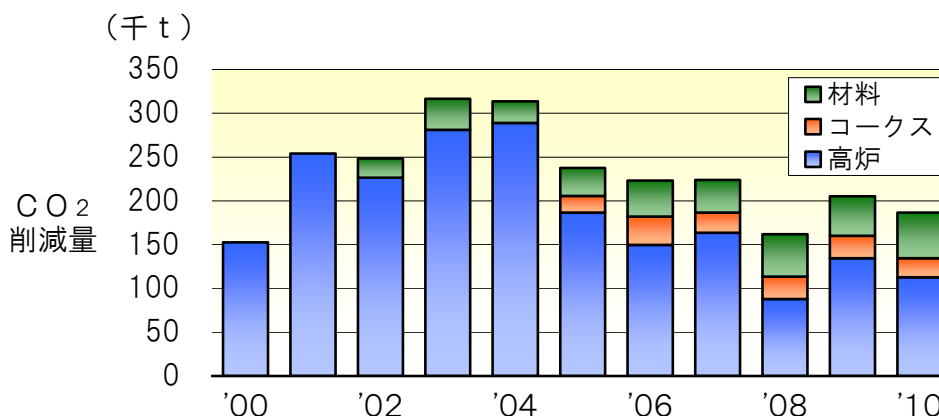
リサイクルによるエネルギー消費、CO₂排出の削減

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会は、エネルギー消費量、二酸化炭素排出量等の環境負荷削減効果について検討・評価し、「プラスチック製容器包装再商品化手法に関する環境負荷等の検討」（2007年6月）にまとめています。

同報告に記載の削減原単位を適用すると、当社のエネルギー消費削減とCO₂削減効果は以下のようなようです。エネルギー消費削減量は年間約2,000千GJ、CO₂削減量は年間約200千tで推移し、環境負荷削減に寄与しています。



リサイクルによるエネルギー消費削減量の推移



リサイクルによるCO₂削減量の推移

東日本大震災の被災者の皆様へ 心よりお見舞い申し上げます。

この度の東日本大震災によって、
甚大な被害を受けられた被災者の皆様に、
謹んでお見舞い申し上げます。

被災地の皆様の安全と、一日も早い復興を
お祈り申し上げます。

JFEプラリソース株式会社は
プラスチック容器包装の
再商品化事業を通じて
資源循環型社会づくりに貢献します。





J F E プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp/>